

# クワン四国

No.1176  
2018年  
3月号



2月23日、徳島森林管理署、徳島県三好市、香川大学農学部は、「祖谷のかずら橋」の架け替え資材であるシラクチカズラの資源確保と活用を推進するための連携協力に関する協定を締結しました。

## 特集1 国有林野等所在市町村長連絡協議会を開催

## 特集2 シラクチカズラの資源確保と活用を推進するための協定を締結

### 目次

- ・ 特集1 国有林野等所在市町村長連絡協議会を開催…………… 2
- ・ 特集2 シラクチカズラの資源確保と活用を推進するための協定を締結 …… 3
- ・ 本郷国有林野部長の現場視察…………… 4
- ・ ヤナセ天然スギの販売について…………… 4
- ・ 各地のたより…………… 5
- ・ 出向者からの便り 森林・林業を活用したゆすはらのまちづくりについて… 8
- ・ 私たち、ヤングライオンです！（第2回）…………… 9
- ・ シリーズ 四国の森林からこんにちは…………… 10



四国山の日

## 四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30  
TEL 088-821-2052  
FAX 088-821-4834  
H P <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>  
E-mail [shikoku\\_soumu@maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@maff.go.jp)

# 特集 1

## 国有林野等所在 市町村長連絡協議会を開催

### 〈企画調整課〉

1月31日、四国森林管理局において「四国国有林野等所在市町村長連絡協議会」を開催しました。本協議会は、地域社会と国有林野事業の連携強化を図り、地域産業の振興、住民福祉の向上に寄与することを目的に開催しているものです。

これまでの協議会は7署代表世話人に参加いただき開催していました



協議会の様子

が、今回はその他の市町村にも声をかけ、来賓として30市町村の参加を得て大規模な協議会となりました。

協議会には、野津山局長をはじめとする局幹部、林野庁から本郷国有林野部長、河合技術開発推進室長が出席、協議会会長の上治馬路村長に議事進行をしていただきました。まず、林野庁より「最近の森林・林業の動向」について説明があり、次に本郷国有林野部長による「林業成長産業化に向けた取組」に関する講演、続いて、意見交換が行われました。



本郷国有林野部長の講演

参加者からは、「シラクチカズラ  
の材料確保に民国連携の協定を活用させていただいているので、今後も協力をお願いしたい。」「森林台帳の作成に苦慮している。林地境界を確定する作業を進めるのに、所有者不明の森林の取扱いと共有林の活用にも苦慮している。」「来年度より森林環境譲与税が市町村に譲与されるが、その活用により森林整備が出来ることを期待している。」「集落営農組織を設立して農地と山林の保全・活用と地域活性化をしているが、森林環境譲与税を今後は活用していきたい。』との意見が出されるなど、熱心な意見交換が行われました。

翌日は、5市町村の参加を得て、CLTを使用した建物を3箇所見学し、これからCLTを取り入れようとしている市町村には興味深い見学となりました。



高知県立林業大学校の新庁舎を見学する参加者

四国森林管理局としても、これらを踏まえ、より一層公益重視、民国連携を推進し、「国民の森林」として相応しい国有林の管理経営に取り組んでいきます。

# 特集2

## シラクチカズラの資源確保と活用を推進するための協定を締結

〈徳島森林管理署〉

2月23日、徳島森林管理署、徳島県三好市、香川大学農学部との間において、地域の「木の文化」の象徴である祖谷のかずら橋、奥祖谷の二重かずら橋の架け替え資材であるシラクチカズラの資源確保と活用を推



協定締結式の様子

進するための連携・協力に関する協定を締結しました。

祖谷のかずら橋は3年、奥祖谷二重かずら橋は4年に1度架け替えを実施しており、今回の協定は、同日に開催された「祖谷のかずら橋架け替え工事竣工式」に併せて締結しました。

かずら橋の架け替えには、丈夫で腐りにくいシラクチカズラが6〜9トン必要となりますが、近年はシラクチカズラの確保が難しくなっています。

徳島森林管理署と徳島県三好市では、平成20年から、シラクチカズラの資源確保のため、国有林にシラクチカズラの苗木を植栽し、栽培試験等を行ってきましたが、活着率が低



架け替えられた「かずら橋」

いなどの課題を抱えていました。

そこで今回、つる生植物の増殖や育成について高度かつ専門的な知見を有する香川大学農学部の指導を得ながら、三好市、徳島署を加えた3者による協定を結び、互いに連携・

協力して、シラクチカズラの資源確保と併せて果実の活用に向けた取組を進め、それぞれを通じて地域振興に貢献していくこととなりました。

徳島署としては、この協定を機に、今後もシラクチカズラの保全と地域社会の貢献に向けた取組を一層進めていきたいと考えています



## 本郷国有林野部長の現場視察

〈企画調整課〉

1月31日～2月2日、本郷国有林野部長が四国森林管理局管内において、国有林の現場視察等を行いました。

1月31日は、同日開催された「四国国有林野等所在市町村長連絡協議会」に先立ち、高知中部森林管理署管内の請負生産事業の現場視察、平成29年11月に落成式が行われた高知県立林業大学のCILTを使用した新校舎と、同日行われていた人材育成協定に基づく国有林野職員による講義の視察を行いました。

また、2月1日～2日、四万十森林管理署管内の視察においては、本郷国有林野部長から、地域のために国有林に何が出来なのか、何をすべきなのか考えて行動する必要があること、国有林の果たす役割は非常に重要であること、事業実行にあたっては安全に十分注意する必要があること等について、職員への訓示が行われました。

現地視察では、高知県大月町で発生した平成28年7月の集中豪雨による山腹斜面崩壊に係る災害関連緊急治山事業実施箇所や、木造軸組とCILT

を使用した宿毛商銀信用組合の新店舗、請負生産事業の現地視察を行い、事業を実行する際の工夫や苦労等について、意見交換を行いました。



現場視察の様子



訓示の様子

## ヤナセ天然スギの販売について

〈資源活用課〉

高知県林材（株）が1月24日に開催した初市（ヤナセスギまつり）にヤナセ天然スギを出品し販売しました。

ヤナセ天然スギについては、平成26年度に開催した有識者会議での検討を踏まえて決定した「ヤナセ天然スギの今後の取扱い」において、資源を維持・保全していくため、継続的・計画的な伐採及び供給は平成30年度から休止することとされました。

今般、出品したヤナセ天然スギは、計画期間の最後の年となる今年度、上層木に被圧されている中下層木のスギ・ヒノキの成長を促し、後継樹の育成を図ることを目的として昨年9月に間伐を実施し、ヘリ集材で搬出したヤナセ天然スギの内、最大径級となる材の一連材を含む65本（約160m<sup>3</sup>）を販売しました。

今回の初市には、高知県内をはじめ、四国、関西、九州、東北地方などから多数の買方に参加していただき、大盛況となりました。



多数の参加者で賑わう初市

販売結果については、今回の搬出したヤナセ天然スギの中で最大径級となる138cm（長さ2m）の元玉が1m当たり67万円と最高値となり、この材を含めた一連材（元玉から6番玉）の販売合計額は約548万円となりました。

また、出品した合計65本の販売合計額は約2773万円、平均販売単価は1m当たり17万円となりヤナセ天然スギは貴重な財産であることを改めて認識しました。

# 各地のたより



## 「高知県立林業大学協定の森」で現地実習を実施

〈高知中部森林管理署〉

昨年11月22日、四国森林管理局と高知県との間で、高知県立林業大学校（平成30年4月本格開校）における人材育成に向けた連携及び協力に関する協定が締結されました。

高知中部森林管理署では、この協定に基づき管内の谷相山国有林に設定された「協定の森」で実施される現地実習に職員を派遣し、現地での作業指導を行いました。

現地実習では、地拵や植付、シカ防護ネットの設置といった作業を未経験の学生に指導する必要があることから、十分な準備と体制作りが重要と考え、民国連携を担う森林技術指導官をキヤップに、署の職員で指導チームを編成し、実際の作業手順や各職員の役割、進行等について入念な打合せを行いました。その後、

2度にわたる林業学校関係者との事前打ち合わせを経て、1月30日に林業学校でシカ防護ネットの概要等について座学を行った後、2月2日から協定の森において、歩道新設やシカネット設置前の枝条整理等の実習を開始しました。当署からは、毎回の現地実習に10名前後の職員が講師として参加しました。

現地では、厳しい寒さと慣れない急傾斜地での作業が重なり、思ったように体が動かない研修生も多く見られました。徐々に作業にも慣れていき、現地実習を重ねる毎に順調に作業を進めることが出来るようになっていきました。また、指導チームにおいても、実習終了後には当日の反省点を職員で話し合い、改善点を次回の実習にフィードバックさせるなど、効果的な実習となるよう工夫を重ねていきました。

今年は積雪が多かったため、何度かスケジュールが延期となりましたが、

### 各地のたより 目次

- 「高知県立林業大学協定の森」で現地実習を実施
- 林業成長産業化地域創出モデル事業の勉強会を開催（署で何が出来る）
- 労働災害防止に係る安全会議の開催について
- 保育所で森林環境教育を実施
- 2校で木工クラフト学習



現地実習に先立ち、座学を実施する曾我部森林技術指導官

2月末の時点で地拵やシカ防護ネットの設置作業が終了し、3月には植付の現地実習を予定しているところです。  
林業学校からは、来年度以降も引き続き協力を要請を受けており、当署としても、これまで国有林の現場で培われた技術力を大いに発揮し、これからの高知県の林業を担う若い人材が、安全で効率的な作業について学ぶことが出来るよう、署をあげて協力していくこととしています。



現地実習：シカネット設置を実施中の署員と学生



現地実習：地拵作業の概要について説明する署員と学生

## 林業成長産業化地域創出モデル事業の勉強会を開催 (署で何が出来る)

〈愛媛森林管理署〉

当署管内の久万高原地域は、県内における民有林の素材生産量の45%を占め、「久万林業」として県内はもろろのこと全国にその存在感を示しています。この度、林野庁の林業成長産業化地域創出モデル事業、林業成長産業化地域の指定を受け、「林業日本一のまちづくり」を目指しているところ です。

この事業について、国有林として何を貢献できるのか検討するため、久万高原町から、菅林業戦略課長、本藤地域林政アドバイザーに来署いただき、勉強会を開催しました。当署からは、河野首席森林官や各グループ長はじめ10名が参加し、本藤地域林政アドバイザーから、総合商社「久万林業本部（仮称）」の創設や事業の4本柱、目指す目標等の説明を受けました。

自由討議では、土場と林道の共同利用、レーザ航測やドローン活用等のICT技術による山側の在庫管理、地域管理経営計画との連動等、参加者それ

ぞれの業務で協力できることについて活発な意見交換が行われました。

署としては今回の勉強会をキッカケとし、更なる検討を加え具体的に何が出来るのか、まずは「隗よりはじめよ」で地域のお役に立てる国有林を目指します。



本藤地域林政アドバイザーによる説明

## 労働災害防止に係る 安全会議の開催について

〈愛媛森林管理署〉

平成29年度も終盤を迎え、各事業がラストスパートをかけている2月26日、愛媛森林管理署会議室にお

いて、請負事業者及び立木販売契約者を対象とした「労働災害防止に係る安全会議」を開催しました。

会議には、署及び請負事業者の職員等41名が参加し、本年度、全国で5件の重大災害が発生したことや、当署が本年度に取り組んだ5つの取組（①愛媛労働局・各労働基準監督署及び林業・木材製材業労働災害防止協会（愛媛県支部）との関係強化、②愛媛県農林水産部森林局との関係強化、③関係市町との関係強化、④関係事業者との関係強化、⑤職員の安全意識の向上）の成果を活かすことを目指しました。

はじめに、署長から「何か一つでも持ち帰って各現場で生かしていただきたい。」と挨拶した後、次長から、本会議の開催目的・伐倒作業における関係法令の遵守等に係る安全指導と重大災害5件の概要を説明しました。

続いて、松山労働基準監督署安全衛生課長より、「林業に特化した安全会議の開催意義と林業災害の推移及びこれからの安全衛生活動について」、林災防愛媛支部の業務部長より、「民有林での重大災害を事例とした安全対策の説明」、管内でも課題となっている「風害木・雪害木の安

全な処理作業」についてDVDでの紹介を、愛媛県森林局林業政策課指導普及係長からは、愛媛県が平成30年4月に整備した全国2例目となるチェンソー操作訓練等ができる安全施設の紹介がありました。

早速、社内の安全会議で使いたいと今回のDVDを借りていく事業者があつたほか、作業員の研修に県の施設を活用したいとの声や、森林官が地域活動で築いたパイプを活かして、率直に意見を交わした署内職員と森林組合職員とは笑顔で次回の懇親・・・を。と、それぞれの「何か一つ」を持ち帰れた会議でした。



## 保育所で森林環境教育を実施

〈徳島森林管理署〉

2月6日「論田保育所」、2月22日「昭和保育所」、2月26日「みのり保育園」において、幼児を対象にした森林環境教育を実施しました。

はじめに、春には葉や花となる冬芽を写真付きで紹介する絵本「ふゆめがっしょうだん」で、冬の公園や雑木林等で見られる樹木の冬姿や冬芽等について説明しました。

次に、木との触れ合いを体験してもらうため、木の枝や木の実等を使った写真立て作りを行いました。それぞれに枝や木の実、端材等を上手に使いながらこだわりの作品に仕



冬芽を学ぶ

上げていました。徳島森林管理署では、幼い頃から森林環境への理解を深めるきっかけとなる取組を積極的に行っています。



仲良く写真立て作り

## 2校で木工クラフト学習

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

2月2日に大月町立大月小学校で2年生28名、2月7日には宿毛市立咸陽かやう小学校の2年生42名を対象に木工クラフト学習を行いました。

2校では、工作に入る前に紙芝居「森」もりや森林環境教育用の下敷きで、植林したスギやヒノキは世話をしないと立派な木に成長しないこと、人

がちんと手入れをすれば、水を蓄え、きれいな空気を作り、災害を防いだりして私たちの暮らしを守ってくれていることなどを説明しました。

次に、大月小学校では魚梁瀬スギ等の小枝の輪切りを使用したくまのストラップ作り、サクラ等の小枝で木の鉛筆作りをしました。各キットを児童達がポンドで貼り付け、鉛筆の芯を入れて完成させました。

また、咸陽小学校では、お雛様飾りのセットに切り抜いたヒノキ板のパーツに児童達がポスターカラーで自由に色を塗り、ヒノキの台座にポンドで貼り付けて作品を完成させました。

なお、2校とも地元のケーブルテレビが真剣に作品づくりに取り組みの様子を取材してくれました。

最後に、児童達から感想の発表があり、「紙芝居を見て木や森林の大切さがわかりました。」「すてきなお雛様の置物が出来たので家族に見せて家の玄関に飾ります。」と嬉しそうに話してくれました。

今回の木工クラフト製作を通じ、木の持つ触りや温もりなど、素材としての木材の良さや森林の大切さについて理解してもらえたものと思います。



お雛様の置き物作り完成したよ (咸陽小学校)



紙芝居「森」を見る様子 (大月小学校)



出向者からの便り

## 森林・林業を活用した ゆすはらの まちづくりについて

高知県梼原町  
産業振興課 参事 入交 信太

梼原町の紹介と森林・林業に関する取組について紹介いたします。

高知県の北西部、愛媛県との県境、四万十川源流域に位置し、日本三大カルストのひとつである四国カルストを有し、森林は町の総面積約2万4千haのうち91%を占める、豊かな森林に覆われた森と水の町となっています。

人工林の多くは、戦後、木材需要の増加に対応することが町民生活の向上になるの思いから、造林資金の貸付等によりスギやヒノキの植林を推進したことから、民有林における人工林率は約7割となっています。

梼原町森林組合では、平成12年に団体として日本初のFSCの森林認証を取得し、梼原町の森林の約62%（13.4千ha）で環境に配慮した持続可能な森林経営を行っています。また、森林組合の製材工場ではCO2認証

も取得し、FSC森林認証を活かした木材販売を行っています。

町では、平成12年に「梼原町森林づくり基本条例」を制定し、森林づくりの基本理念と基本方向を明らかにし、将来にわたって森林の維持と豊かで住み良い町づくりを実現するため、森林の有する機能の高度発揮に関する施策及び林業の持続的な発展に関する施策を実施しています。

このひとつとして、森林の整備・保全とCO2の削減を図り、間伐等の森林整備の際に発生する端材等の未利用材をペレットにし、ペレットストーブ等で熱利用することにより、森林資源の循環利用を目指す、木質バイオマス地域循環モデル事業プロジェクトに取り組んでいます。この取り組みの為、町では、平成20年度にペレット工場を建設し、未利用材をペレット工場に持ち込んだ場

合、森林所有者に対して1t当り4,800円を交付しています。平成28年度は、4.2百tに対して38.9百万円を交付しています。

森林の活用として、四国で初めて森林セラピー基地の認定を受けています。森林セラピーは、科学的な証拠に裏付けされた森林浴であり、四国には3本しか認定されていない森林セラピーロードのうち2本が町内にあります。森林に触れ合うことで、ここからだにリラックス効果が生まれますので、来町された際は、ぜひ体験してみてくださいいかがでしょうか。



久保谷セラピーロード

町では、公共建築物を中心とした多くの建築物が町産材を活用したもものとなっています。特に、新国立競技場の設計に携わっています隈研吾氏の設計による建築物が現在建築中のものも含め6棟あり、勤務先である梼原町総合庁舎もその一つで、多くの見学者が来庁されています。



梼原町総合庁舎

本町でも林業の担い手不足は喫緊の課題となっており、その対策として、担い手の技術知識の習得を目的とした、ゆすはら産業担い手育成塾を平成27年度に設立しています。現在、10名の塾生で、先進地の見学や講師を招いての研修を定期的に行っています。

現在の施策についてご紹介しましたが、今後、FSC森林認証を受けている豊かな森林資源を活かした、木材需要、原木生産の拡大を行うことにより梼原町の森林・林業が持続的な産業となるよう関係者の皆様と取り組んでいければと考えております。





# 私たち、**第2回** ヤングライオンです!



吉元 崇紘さん

みなさん、こんにちは。  
ここでは、林野庁四国森林管理局に入庁後、各署に配属されて職場の皆さんと業務をこなし、頑張っている若獅子達【ヤングライオン】にお話を聞きながら、今後の夢などを聞かせてもらいました。  
第2回目となる今回は、嶺北森林管理署治山グループ 吉元崇紘さんにインタビューをお願いします。

**Q** 職場に入る前の印象を教えてください。

良い意味でとにかく男臭く豪快な職場だろうと思っていました。僕はとても緊張していましたが、当時はまだ見知らぬ四国森林管理局の新採担当職員の方から入庁前にお電話をいただき、事務連絡のほか、僕のプライベートな相談まで親身になって乗っていただき、おかげさまで肩の力が抜け、安心して入庁することができました。

**Q** 入庁後の印象はどうでした

僕は今まで自分は男気あふれる熱い男だと思っていましたが、本物の漢を目の前にすると圧倒されました。  
先輩（男性）：男気があり後輩思いで熱いが、女性（特に妻）にはめっっぽう弱い。

先輩（女性）：時には誰よりも敵しいとの噂ですが、普段は職場の中で爽やかな癒しの風を吹かせてくれています。

**Q** 職場で楽しいときってどんなとき？

新鮮な経験がたくさんできることです。季節の移り変わりを五感全てで感じることもでき、人生初のパウダースノーに触れた時は思わず積雪に大の字ダイブし、大人になって無くしていたピュアな心を再び取り戻すことができました。（第一回ヤングライオンに登場された谷脇さんが落とされたものを幸運にも拾ったのかも知れません（笑））

**Q** 逆に難しいなあと思って思うときってありますか。

入庁当時は土佐弁があまり分からず言葉の壁を感じましたが、今ではちつくとした時に思わず口に出してしまうほど馴染んできちよります。最近では『せごどん（大河ドラマ）』を見ながら故郷の言葉を復習しています。

**Q** 今までの業務を振り返ってみてどうですか

今でも分からないことはありますが、学び楽しさを日々実感しつつ、山に入ること歴史の深さ、自然の雄大さ、先輩方の偉大さをひしひしと感じ、やりがいや責任を痛感しています。

研修では担当外の業務についても基礎的なことから学ばせていただくことで、広い目線を養い様々なつながりや将来のことを考えながら普段の業務に励む必要性を強く感じました。また、災害時等にはドローンの活用等をおと



地域の皆さんとよさこい祭りに参加  
(チーム「本山さくら」)



「嶺北スギ」をふんだんに使った地方車

**Q** 今後の抱負を聞かせてくれませんか

僕は率直にこの職場に入庁できて良かったと心から思います。やる気次第で様々な道も拓くことができ、可能性の大きな職場だと感じています。

今後、積極的に動き、様々な経験をして視野を広げていきたいです。そして、民国連携等により地域活性化にも貢献できるように頑張りたいです。（今はまだ一緒にお酒を飲むことしかできませんが、いずれは先輩方のように業務で成果を出せるように努力します。）

前回と同じく平成28年度入庁された方にインタビューさせてもらいました。緊張していたのか、終始控えめな

印象で、優しい青年ぶりがよく伝わりました。同時に心は男気あふれる方なんだなあと感じました。写真のように今後も職場もプライベートも思い切り楽しんでもらいたいですね。  
【栄談】

シリーズ

# もり 四国の森林からこんにちは



愛媛森林管理署 目黒森林事務所

森林官 藤川 優太

目黒森林事務所は、愛媛県の南西に位置する北宇和郡松野町に所在しており、松野町内及び北宇和郡鬼北町内（旧日吉村周辺）の国有林約2300haを管轄しています。

松野町内に所在する目黒山国有林は、「日本美しの森お薦め国有林」に選定された滑床溪谷（宇和島森林事務所管内）に隣接しています。

最高峰の「目黒鳥屋」（1157m）の頂上からは、四国アルプスの山々が一望でき、さらに、今の時期には、天然林の峰々が真っ白に雪化粧をし、とても美しく、滑床へ向かう道筋から遠望することができます。

最近、テレビで紹介されることも多い滑床溪谷のキャニオニングに加



地域の行事に参加する筆者（写真右端）

えて、管内の林道を利用した松野・四万十バイクレースも開催される等、当事務所管内の山々は多くの方に親しまれています。

管内の国有林はスギ・ヒノキの人工林が大部分を占めており、現在、保育間伐（活用型）を中心に計画的な森林整備に取り組んでいます。今後は、伐期を迎えた林分での主伐・再造林も進めていく予定で、事業量はさらに増える見込みです。

目黒森林事務所では、管内国有林の安全を祈願するため、目黒山山神宮を修繕して、国有林を訪れる方や各事業の安全を常日頃から職員一同で願っています。

目黒地域は、住民の方々との関わりも深く、地域の皆さんは、転勤族の私たちを暖かく迎えて下さり、まるで地域で育った子供のように大事にして頂いています。私たちも地域に少しでも貢献できるよう各種行事に参加し、交流を深めています。

さて、今年度をもって142年と長い歴史を築いてきた松野南小学校が閉校されることとなりました。同校と私たちは、遊々の森の協定を結び、毎年4月に行われる滑床山開きでの森林教室をはじめ、サクラの木への植樹等を通じて交流を図ってきました。私たち職員の中には同校の卒業生や子供が通学していた者もお

り、大変お世話になりました。4月からは地域も少しさみしくなるかもしれませんが、その分、国有林が存在を發揮し地域の皆さんに少しでも貢献していきたいと考えています。



県道から望む目黒鳥屋周辺



目黒山の安全を司る祠